

「戦争と平和！」 第 24 回

『強い国』より『賢い国』を …歴史の原点としての「人間」…

島川 謙二

▼はじめに

戦争は踏んだ方は忘れても、踏まれた方は忘れないといわれています。アメリカの飼料用穀物で生きのびた日本人。私も給食の脱脂粉乳を飲んで育ちました。

軍人には今までに約 60 兆円が支払われましたが、空襲などで亡くなったり、負傷したりした一般の日本人には、1 円も支払われていません。戦争、歴史はまさに『加害者』『被害者』『強者』『弱者』を強烈に描き、『賢者』『愚者』を登場させます。

▼会田雄次『アーロン収容所 西欧ヒューマンイズムの限界』

学生時代の友人と 1991 年からつづけている読書会で今年 1 月に読みました。128 冊目です。会田雄次はビルマ・アーロン収容所で英軍の捕虜として 1 年 9 か月間、過酷な強制労働の体験をし、『英軍さらに英国に対する燃えるような反感と憎悪を抱いて帰って来た』と書きます。英軍の女兵士が捕虜兵に対して見せる蔑み、人間扱いしない態度。そして対東洋人、有色人に全裸姿を見せても……。多くのアジア人を数百年にわたって植民地支配し搾取、アラブ諸国の独立やパレスチナ問題などでは混乱させた英国。その国が戦後、近代化の模範、自由と民主主義の国家として賛美されてきたことは不思議だと会田は喝破します。坂東俘虜収容所は第 1 次大戦の際、徳島県鳴門市に捕虜になったドイツ兵約 1000 名を収容。捕虜に対し公正、人道的、寛大な友好的処置を行なったことで有名です。

▼城山三郎『指揮官たちの特攻』

城山三郎は取材のため知覧の料亭を訪問。そこで特攻隊員たちは出撃する前夜、最後の宴を催します。感極まって刀で鴨居に傷をつけました。城山はその刀キズを撫でながら嗚咽します。城山三郎の『指揮官たちの特攻 幸福は花びらのごとく』は海軍特攻 1 号でレイテ沖に飛んだ新婚の関大尉と終戦後の 15 日夕、沖縄に向かった中津留大尉、23 歳の海軍同期生を描いた作品です。20 年ほど

前にカミさんと「知覧特攻平和会館」へ行きました。海軍零式艦上戦闘機が置かれ、遺品室には特攻隊員たちの最後の手紙、写真などが展示されています。陸軍特攻隊は 1945 年 3 月 26 日から開始され、10 代～20 代の若者 1036 名（うち知覧から 402 名）が亡くなりました。帰りの燃料の代わりに 250 キロ爆弾を装着し、敵の艦船めがけて突入しました。

戦争にかかわる展示品は、広島原爆資料館（広島平和記念資料館）以外ではベトナム・ホーチミン市の戦争博物館にアメリカ軍の枯葉剤による奇形の赤ちゃんが、ひっそりと展示されていたのが忘れられません。

▼『滅びゆく国ニッポン』 ジャック・アタリの予告

フランスの学者ジャック・アタリは巨額債務と低金利は日本を滅ぼすと予告しています。出生率 1.92 という先進国でトップを実現したフランスが、いかに大変な努力をしたか。無策の日本はこの 8 年間で出生率は 1.44 から 1.36 になっています。日本の債務残高が主要先進国中で最悪、デフレを脱却できず、中央銀行が国債を買い支える異常事態。金融緩和による株高、1 人当たり GDP は 1988 年の 2 位から 2018 年の 26 位へ下落、実質賃金の減など歪んだ日本経済の実態があります。

▼『強い国』より『賢い国』を

0・ヘンリーの『賢者の贈り物』は、若い夫婦デラとジムのクリスマス・プレゼントの物語。デラは美しい髪を切り、売ってジムのために「懐中時計用のプラチナのチェーン」を買います。ジムはデラのために自分の高級懐中時計を売ってデラの髪用の高価な「べっ甲の櫛」を買います。2 人はお互いの贈り物を手にして……。

0・ヘンリーは『贈り物を贈りあった』すべての人々のなかでも、彼らほど賢い人はいない』と書いています。

『賢者』とは『支え合う人』です。『賢い国』とは『支え合う国』です。梅原猛の『歎異抄入門』を読んで『善人なほもつて往生をとぐ、いはんや悪人をや』という親鸞の言葉が理解できました。歴史の原点は人間です。